

令和3年度教育委員会点検評価報告書

(令和2年度分)

雲南市教育委員会

目 次

1. 令和2年度 教育委員会の活動状況	
(1) 雲南市が目指す教育	2
(2) 令和2年度の新たな事業	3
(3) 教育委員会の運営・活動	6
2. 点検評価に当たって	
(1) 点検評価の対象	6
(2) 点検評価の方法	6
3. 令和2年度 教育委員会点検評価	
はじめに	8
基本政策1 雲南市教育の推進体制の構築	8
基本政策2 「生きる力」を育てる学校教育の推進	9
基本政策3 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進	11

1. 令和2年度 教育委員会の活動状況

(1) 雲南市が目指す教育

令和元年度に策定した「第4次雲南市教育基本計画」では、雲南市が目指す「教育の基本目標」を継承し、次の3点を基本政策としています。

- ① 雲南市教育の推進体制の構築
- ② 「生きる力」を育てる学校教育の推進
- ③ 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進

この基本計画の初年度に当たる令和2年度は、各基本政策について次のとおりの重点施策を掲げ、各種の具体的事業に取り組みました。

基本政策1 雲南市教育の推進体制の構築

- 開かれた教育行政の推進
- 地域の実情等に応じた教育環境の整備
- 地域全体で教育に取り組む仕組みづくり

基本政策2 「生きる力」を育てる学校教育の推進

- 「夢」発見プログラム（雲南市キャリア教育推進プログラム）の推進
- 幼児教育の充実
- 確かな学力の育成
- 豊かな心の育成
- 健やかな体の育成
- 人権・同和教育の充実
- 特別支援教育の充実
- 不登校児童生徒への対応の充実
- 中学校区内の連携・交流の推進

基本政策3 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進

- 社会教育推進体制の構築
- 地域自主組織との連携
- 青少年の健全育成の推進
- 地域の子育て支援の充実
- 図書館サービスと読書活動支援の充実

- 人権・同和教育の推進
- 文化活動の推進
- 文化財の保存と活用
- 生涯にわたって親しむスポーツ活動の推進
- 社会教育施設の整備・運営

(2) 令和2年度の新たな事業

① 雲南市学校施設整備保全計画策定

学校施設を総合的な観点で捉え、構造躯体が健全で長寿命化が可能な施設については長寿命化することを前提に、適正な改修・維持保全に努めることで、安全・安心な教育環境を整備し、中長期的な維持管理コストを検証し、将来かかるコストの縮減と平準化を図ることを目的に「雲南市学校施設整備保全計画」を策定しました。

② 木次こども園建設事業

これまで3歳未満児棟と3歳以上児棟の2施設で運営していましたが、新たに一体化の施設として園舎の建設を行いました。

③ 新型コロナウイルス感染症対策の実施

○感染症対策に関する物的支援

学校再開に伴う感染症対策や学びの保障を行うため、国の「学校保健特別対策事業費補助金」を活用し、小中学校における新型コロナウイルス感染症対策に資する消耗品や備品を購入しました。

○感染症対策に関する人的支援

学校施設の消毒や換気等を行うなど教職員の負担を軽減するため、「スクール・サポート・スタッフ」を規模の大きい4校に配置しました。

○小中学校教材費保護者負担支援事業

保護者支援の緊急対策として、「小中学校教材費保護者負担支援事業」を創設し、児童生徒が学校で使用する教材費（保護者負担、学校徴収）の購入・支援（一人あたり5千円）を行いました。

○要保護準要保護児童生徒家庭への支援

就学援助受給家庭の経済的負担を軽減するため、児童生徒一人あたり5千円を就学援助費に追加して交付しました。

④ 雲南市いじめ問題対策連絡協議会等条例の制定

小中学校におけるいじめ問題の早期解決を図るため、関係機関が参画し総合的ないじめ対策について協議する連絡協議会のほか、重大事案に対応する対策委員会や調査委員会を設置できる「雲南市いじめ問題対策連絡協議会等条例」を制定しました。

⑤ GIGAスクール構想に関する取り組み

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、前倒して実施されることとなった国の「GIGAスクール構想」について、本市においては脆弱な通信環境の改善整備後、令和3年度にタブレットの配備を行うこととしました。そのため「ICTを活用した教育支援実証事業」を創設し、吉田中学校をモデル校として、健康観察や授業での活用、家庭への持ち帰りなど、1人1台環境に対応するための実証を行いました。また、おんせんキャンパスではオンライン支援など、在家庭や別室登校の児童生徒への学習支援を行い、個別最適な学びを保障する実践を行いました。

⑥ 永井隆記念館建設事業

令和元年度に着手した施設整備工事（建築主体、機械設備、電気設備）と展示工事に加えて、令和2年度に外構整備工事、造園工事、「平和の鐘」モニュメント設置工事を発注し、令和3年3月にすべてが完了しました。令和3年4月のリニューアルオープンに向けて、1月から指定管理者制度を導入しました。

⑦ サッカーを通じた魅力ある教育環境の創出事業

本事業は、子どもたちをはじめとするサッカー競技の振興とサッカーを通じた魅力ある教育環境の創出（高校魅力化）を図るとともに松江シティFCユースが年間を通じて練習できる環境を構築することを目指しました。しかし、全体事業費等が増加する中で、雲南市と松江シティFC(株)の代表が話し合われた結果、松江シティFC(株)は令和3年4月のユースチーム設立を断念されました。

⑧ オリンピック・パラリンピック事業

延期となっていた東京2020オリンピック・パラリンピックについて、令和2年9月に国の組織委員会による新たな聖火リレーの実施方針が示され、雲南市の実施日が令和3年5月16日に決定しました。これを受けて、市では実行委員会設立準備や運営計画の策定など、国の組織委員会並びに島根県と連携しながら開催準備を進めました。

⑨ 「どようび★えいご」の実施

毎年、市内小学生を対象に「どようび★えいご」（※国際交流員や大学生等のボランティアによる英語に親しむ活動）を行ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの集合形式での開催が困難なため、インターネットを活用したYouTube動画「おうちで★どようび」を制作し、10回の配信を行いました。

⑩ 雲南市社会教育施設個別施設計画等の策定

国の「インフラ長寿命化基本計画」及び「雲南市公共施設等総合管理計画」に基づき、個別施設毎のより具体的な管理方針を示すため「雲南市社会教育施設個別施設計画」及び「雲南市スポーツ施設個別施設計画」の2つの計画を策定しました。

⑪ 地域とともにある学校づくり推進事業の推進

第4次雲南市教育基本計画を具現化するため、学校と地域の創意工夫による中学校区ごとの実情に応じたふるさと教育など特色ある教育活動に取り組み、地域とともにある学校づくりを推進しました。

⑫ 子ども・若者自立支援総合推進事業の推進

主に高校生年代を対象に、高校復帰や大学等への進学を目指した学習支援、さらに就労支援に関する体験活動等を行いました。

⑬ 文化遺産総合活用推進事業の推進（雲南市たたらプロジェクト会議）

雲南市たたらプロジェクト会議を開催し、「日本鍛冶学会」との連携による情報発信事業や「たたら文化」をテーマとした研修プログラムの開発協力等を行い、本市が誇る「たたら製鉄」に関する有形・無形の文化遺産を活用した関係人口拡大や観光振興及び産業振興など、活力ある地域づくりに展開させました。

⑭ 雲南市ホール施設整備保全計画の策定

ホール施設（古代鉄歌謡館、加茂文化ホール、木次経済文化会館）について、定期的な点検と計画保全により施設の安全性確保を図るとともに、維持管理業務の効率化や経費縮減、現在の市民ニーズに応えられる施設とするため「雲南市ホール施設整備保全計画」を策定しました。

(3) 教育委員会の運営・活動

① 総合教育会議

2回開催し、次のことを協議しました。

- ・第1回 「雲南市のGIGAスクール構想」について、事務局より策定状況の説明を受け、意見交換を行い、今後の教育のあり方について協議しました。
- ・第2回 第1回に引き続き「雲南市のGIGAスクール構想」について、吉田中学校の授業見学を行った後に、今後の教育のあり方について意見交換をしました。

② 定例会、懇談会、臨時会

次ページ掲載資料のとおり実施しました。

③ 教育委員による学校訪問・各種行事への参加

・学校訪問等

校長が新たに赴任した学校を訪問しました。各学級を巡り、ICT機器を生かした学習の様子や新型コロナウイルス感染症防止対策を視察しました。その後、各校の学校経営について意見交換を行いました。

・各種行事への参加

新型コロナウイルス感染症の影響で各種行事が中止となったため、参加をしていません。

④ 視察研修

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から視察研修は実施しませんでした。

2. 点検評価に当たって

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正により、平成20年度から毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況について、点検及び評価を行い、その結果を報告書として議会に提出するとともに、市民の皆様へ公表することとされています。

(1) 点検評価の対象

今回の点検評価は、令和2年度の重点施策に基づき実施した各種事務事業を対象としました。

(2) 点検評価の方法

行政評価における「施策マネジメントシート」及び「事務事業マネジメントシート」をふまえ、教育委員会で、必要性、効率性、有効性、公平性等の様々な観点から分析し、成果や課題、今後の改善点について点検評価することとしました。

資料

教育委員会の活動					
(1) 会議・活動の開催状況					
項目	単位	令和2年度	令和元年度	増減	事業内容
定例会	回	12	12	0	毎月1回開催
臨時会	回	1	1	0	必要に応じ開催
懇談会	回	6	3	3	必要に応じ開催
傍聴者数	人	1	1	0	
総合教育会議	回	2	2	0	
視察研修	回	0	1	▲ 1	必要に応じ実施
(2) 審議の状況					
項目	単位	令和2年度	令和元年度	増減	事業内容
定例会審議案件	件	83	141	▲ 58	
報告事項	件	23	22	1	
承認事項	件	5	9	▲ 4	
審議事項	件	19	52	▲ 33	
指定事項	件	0	0	0	
教育長報告	件	36	58	▲ 22	
臨時会審議案件	件	1	3	▲ 2	
懇談会協議件数	件	8	8	0	
(3) 定例会・臨時会・懇談会以外の活動状況					
項目	単位	令和2年度	令和元年度	増減	事業内容
学校訪問	件	11	9	2	

3. 令和2年度 教育委員会点検評価

はじめに

雲南市が合併して17年が経ちますが、旧町村を大切に、限られた予算の中で、公平・公正に教育や行政サービスがなされた1年だったと思います。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行という予想外の事態に、計画した事業が実施できなかつたり、新しい生活様式への対応を求められたりした年度となりました。コロナ禍で思うような成果が望めないところ、どの事業も前年度までの取組を土台に真摯な事業展開がなされたと思います。

基本施策1 雲南市教育の推進体制の構築

- 地域とともにある学校づくり推進事業については、全中学校区にコミュニティ・スクールが設置され、学校・家庭・地域が一体となって教育を担う体制が整備され、2年が経過しました。今後も、市民への周知を図り、その理解を深めていく必要があります。コミュニティ・スクールの充実を図るためには、中学校区を越えたコミュニティ・スクール同士の情報交換や交流も有効ではないかと考えます。当該事業の推進には、コーディネーターの役割が重要であり、コーディネーターがその役割を安定的、かつ継続的に果たせるよう、雇用面等も含め、環境整備を図っていく必要があります。
- 教育魅力化推進事業については、「夢」発見プログラムと並ぶ雲南市キャリア教育の中核をなす事業に成長した感があります。人口の社会増や持続可能な地域づくりという市の課題解決の一つの施策として重要であり、高校へのコーディネーター配置は有効です。統括プロデューサーの役割にも効果を期待したいと思います。また、市民への更なる理解・浸透のためにはPRの強化が必要と考えます。
- 市内高校生人口が減少する中、市内高校の学生寮等の充実を図るなど、市外からの入学生の確保に繋がる施策の検討が重要になってきていると考えます。
- 雲南市PTA連合会補助金については、少子化や保護者の多様化・多忙化を考慮すると、市PTA連合会の研修会が教育委員会との共催となったのは当然のなりゆきであり、教育フェスタと共催であることから削減の方向で検討すべきと考えます。今年度から児童・生徒がタブレットを家庭に持ち帰るようになるので、PTA研修として家庭での配慮事項などの研修を新たに計画すべきと考えます。

- 小中学校の施設整備事業ですが、限られた予算で、工夫した運用がなされています。一部の校舎は築50年を超えるところがありますので、小中一貫教育や、学校統合等も含めて校舎の改築について計画的に進めていく必要があります。また、洋式トイレへの転換、ランチルームへのエアコン設置などについても、計画的に取り組むことが必要と考えます。
- 学校給食管理運営事業については、安全安心な学校給食を提供するため、引き続き地元野菜の使用を推進するとともに、生産者と園児・児童生徒の交流についても積極的な取り組みが期待できます。受託業者と緊密な連携を図り、異物混入事案0に向けて、引き続き緊張感を持って取り組む必要があると考えます。また、保護者等が実際の給食を確認できるよう、学校給食を毎日HPやSNSに掲載するなどの工夫も必要と考えます。
- 地球温暖化により地域問わず大雪になるケースが増加しており、安全安心な通学のため、スクールバス更新の際には四輪駆動のバス導入が必要と考えます。

基本施策2 「生きる力」を育てる学校教育の推進

- 「夢」発見ウイーク事業については、過程を大切にした中学校の取り組みや職場の開拓でのコーディネーターの努力は高く評価できます。生徒にとっては、保幼小中の体験の集大成としての職場体験であり、自立した大人への入り口となる重要な体験事業であるため、今後も継続すべきものと考えます。
- 「夢」発見プログラムは日本でも先進的なキャリア教育の取り組みです。市外から子どもや親が雲南市で学びたいと思うためには、プログラムを通して学力の向上に結びつけるような取り組みが必要だと思います。学習習慣と共に学習機会と場所の提供を工夫する必要があります。

「夢」発見ファイル（キャリアパスポート）については、小・中・高と繋がるキャリアの成長記録ですが、継続と活用が望まれます。更に、その結果を検証するしくみの検討が必要と考えます。
- 小学校英語教育推進事業については、小学校5、6年生で教科化が実施されました。これまで継続してきたAETの配置や外国語教育担当教員の配置については一定の成果をあげてきたと考えます。令和3年度からはALTを小学校にも派遣し、小中一貫した英語教育の充実を図る必要があると考えます。

- 学校図書活動充実事業について、学校司書は予算内で工夫して配置してあり年々増員していますが、すべての学校配置を図る必要があると考えます。自ら学ぶ意欲や探究心、豊かな感性の育成に果たす図書館の役割は大きく、生活習慣の改善や学力向上にも繋がると考えます。また、学校図書館の図書の充実とともに、公共図書館との連携を進めることで大きな効果が期待できると思います。
- 子ども家庭支援センター運営事業・オワン学習塾まなびい運営事業・学校支援員配置事業・スクールサポートスタッフ配置事業については、幼児期からの支援を含め、困難を抱えた子どもへのきめ細かな支援が充実してきています。相談数も増加の傾向にあることや多様性に対応するためにも人員体制の充実が望まれます。人材や予算の確保が課題と思いますが、教職員の働き方改革推進のためにも継続・充実が必要と考えます。
- スクールソーシャルワーカー活用事業・子どもと親の相談員配置事業については、子ども家庭支援センターとの連携により大きな効果が期待できます。今後ますます重要な役割を果たすものであり充実が望まれます。
- おんせんキャンパス運営事業については、おんせんキャンパスでは、不登校児童生徒やその保護者に対し、きめ細かな対応に取り組んでおり、大きな効果を上げています。しかし、本市の不登校児童生徒数は依然として高止まりの状況にあり、その役割はますます大きくなっています。ひきこもりがちな子どもへの対応等課題がありますが、関係機関が協働して取り組む必要があると考えます。中学校卒業後の困難を抱えた子どもへのユースサポートは、その改善策となる可能性があります。社会的自立に向けた切れ目のない支援を継続する必要があります。
- 各種大会選手派遣補助金については、各学校単独の移動ではなく合同での移動を試みるなどにより経費削減が可能と思われます。全国大会出場のために県選手団を構成することもあり、合同での移動は部活動担当者には受け入れやすいものと考えます。
- 部活動地域指導者活用支援事業については、部活動の充実や教職員の負担軽減等に資する事業であり、その継続・拡充が必要と考えます。指導者が安心して指導できるよう、研修の充実、学校との緊密な連携など、その環境を整える必要があります。教員の働き方改革に係る労働時間削減で最も効果的なものが部活動指導からの解放であり、外部指導者の確保を早急に進めるべきと考えます。
- アンケートQ-Uについては、いじめの早期発見には大いに役立っているものと認識

していますが、実施している学校側の意見や成果が見えにくいように思われます。長年継続した事業でもあり、今後の実施継続や活用の仕方について再検討する時期ではないかと考えます。

- 特別支援教育事業は支援の必要な児童・生徒が増えていることもあり、充実した取り組みがなされています。特に小学生は学力、聞く力など個人差が大きく、支援員配置のさらなる拡充が必要と考えます。

基本政策3 心豊かでたくましい人づくりを目指した社会教育の推進

- スペシャルチャレンジ・ジュニア事業・中高生の！幸雲南塾事業については、コロナ禍にあって、困難な事業となりましたが、可能な形を模索しつつ進めていく必要があります。
- 中高生の！幸雲南塾事業はキャリア教育の中で先進的な取り組みだと思えます。一部の生徒しか参加できないのが現状ですが、できるだけ多くの生徒が参加できるよう工夫した取り組みが必要と考えます。
- 放課後子ども教室事業については、地域との協働で実施できていると思えます。今後は要員の確保が課題となると考えます。
- 家でも学校でもない第三の居場所事業については、支援の必要な児童のために継続が必要と考えます。
- 人権・同和教育の推進については、人権問題に対し、知的理解は深まっていますが、人権感覚は十分に身につけていないとの評価もあります。人権感覚を養うことは、幼少期からの教育が肝要であるので、教育現場での継続した人権・同和教育をさらに進めることが必要と考えます。
- 平和と人権尊重のまちづくりは工夫した取り組みがなされています。近年、同和教育問題、外国人差別、障がい者差別などの解消のための法律ができています。市民の心の教育は目に見えないものですが、更に大切に進める必要があると思えます。
- 地域文化の振興に関わる事業については、近年、目標値より実績値の方が高くなっており、成果が上がってきています。令和2年度の実績は、文化芸術に親しんでいる市民の割合は目標値より若干低い実績値ではありますが、新型コロナウイルス感染症による一時的な影響と思われるので、今後も情報発信を進めていくことが必要と考えます。

- 市内には多くの文化施設・体育施設があり、限られた予算で工夫した取り組みがなされています。合併前の旧町村から引き継いだ施設が多数あり、老朽化が進んでいます。集約化により修繕費削減につなげることや、改築等計画的な取り組みが必要であると考えます。
- スポーツ少年団活動は各小学校校区で盛んに行われていますが、活動内容が特定のスポーツ（野球等）に偏っているように思われます。これは、指導者や保護者が、試合に勝つという面を重視することが要因のひとつとして考えられます。小学校段階では全身の発達を促す意味からも、様々なスポーツや運動を経験するような工夫ができるとよい。また、スポーツ少年団活動補助金の拡充を行うとともに、大会開催の会場使用料等の免除を行うなど活動しやすい環境を整える必要があると考えます。
- 永井隆平和賞事業については、本市の平和教育の象徴的な事業として継続すべきと考えます。また、リニューアルした永井隆記念館とともに、全国への情報発信の強化が必要であると思います。さらには、市民が平和を考える大切な機会となるよう、より市民に身近なイベントとするための工夫が必要と考えます。
- 永井隆記念館や加茂岩倉などの展示施設では、集客を上げるために様々な文化企画展など開催し、行く度に違うものが見られるような努力が必要と考えます。